

■ 秋の公開講演会

## グループダイナミクス研究の実践的展開

—人間関係を基盤とした自己実現をめざして—



2007年9月12日(木)

18:00~20:00

南山大学 名古屋キャンパス D棟 (通訳付き)

**デービッド・W・ジョンソン氏**

(ミネソタ大学教授・ミネソタ大学協同学習センター長)

**ロジャー・T・ジョンソン氏**

(ミネソタ大学教授・ミネソタ大学協同学習センター長)

**【司会(石田)】**：本日は、お忙しいところ多数お集まりいただきましてありがとうございます。進行を担当させていただきます南山大学の石田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、今日お迎えした講師の先生ですが、ここ中日ドラゴンズの地元・本拠地の皆さんに、ミネソタ・ツインズを紹介させていただきます。

向こう側がロジャー・ジョンソン先生です。それから、こちらがデービッド・ジョンソン先生です。もちろん、双子ではありませんが、お二人ともミネソタ大学の教授であるとともに、お二人で大学の協同学習センターのコ・ディレクターをされています。

社会心理学を学んでいる方、あるいはラボラトリー方式の体験学習に関心を持っていらっしゃる方はクルト・レヴィンという人の名前をよくご存じだと思います。レヴィンの高名なお弟子にモートン・ドイッチという人がいます。デービッドさんはそのお弟子さんにあたりまして、その意味では、レヴィンの直系の弟子ということになるわけです。お二人は、このレヴィンからはじまるグループダイナミクス研究の知見を実践の場にどういふふうにかすかというお仕事をずっと続けてこられて、APA(アメリカ心理学会)の賞をはじめ、幾多の賞を受賞していらっしゃいます。

今日は、デービッド・ジョンソン先生の方にご講演をお願いいたしまして、皆様にもそのようにご案内を差し上げたのですが、ロジャー・ジョンソン先生も加わって下さり、お二人で進めていただけるということになりました。

今日の通訳は、溝口良子さんをお願いしています。それでは、よろしくお願いいたします。

**【デービッド・ジョンソン】**：こんにちは。皆さんにお会いできてとてもうれしく思います。

コメディアンのウディ・アレンがかつて言ったことですがけれども、ここに皆さんが参加して下さっているということはもうこの講演は80%成功したようなものだ、と。ですから、隣に座っている人と挨拶を交わして、「ここに来てよかったですね」とお互いに言ってみて下さい。

つまり、良いニュースは、今言いましたように、皆さんにここにいらしていただいたということです。一方、ここにいるだけでは終わらない、覚悟の必要なニュースとしては、ほかに課題があり、やらなければいけないことがあるということです。2つの責任が皆さんにはあります。これから起こるできごとから、何か自分にとって価値のあること、大事なことを持って帰るということですね。ここで起こったことを、自分だけではなくて、周りの人も同時に価値のあることや興味のあることを持って帰っていただけるよう、そのことに皆さんも互いに協力してほしいということです。つまり、皆さんがどのように協力をし合うかによって、今日のレクチャーの質が決まるということです。

左側の人の方を向いて、どんな人かちょっと見てみて下さい。では、右側の人をじっくり見て下さい。両隣の人たちは、どれだけ協力的かなあ、というふうにちょっと考えてみて下さい。

皆さんがそれに答えるのにちょっと助け船を出したいと思うのですが、もう一人、アメリカのコメディアンがいて、そのウイル・ロジャースは「人生はギブアンドテイクである」と言いました。そして、とても有名なアメリカの教育者であるロジャー・ジョンソンという人が（笑）、これは協同にも使えるということでそれをもじって、このように言いました。「協同はギブアンドテイクである」。

あなたの隣の方を見て、その人に何でも結構ですから、何かあなたからあげてみて下さい。あまり価値のあるものはあげないように！ 何かちょっとしたもので構いません。たとえば、ペパーミント・キャンディーか、余分なペンがあったらそれでもいいかもしれません。後ろを向いたり横を向いたりして、お互いにあげたりもらったりしてみてください。

（協同学習の実践「プレゼント交換」）

**【ロジャー・ジョンソン】**：とてもよく活動することができましたね。次に、協同学習というものをしっかり見ていきたいと思います。ここに今から写真をお見せするのですがけれども、私とデービッドが大学の校内を歩いているという写真です。これを覚えておいてもらおうと、皆さんがミネソタに来られたときに遠くからでも私たちだというのが分かるようにするためです。

（「人間の骨格」と「類人猿の骨格」のレントゲン写真を示して）これです（笑）。右側（の人間の骨格の方）が私です。デービッドはあちら側（の類人猿の方）ですね。

【デービッド】：私が落ち込んでいるときの姿勢ですね（笑）。

【ロジャー】：では、簡単に私たちの紹介をしたいと思いますが、私たちは、とても違います。デービッドはコロンビア大学で社会心理学を学びました。彼がそうしている間、私はカリフォルニア大学のバークレー校でとても素晴らしい時を過ごしていました。時々、授業にも出ていましたが（笑）。

私がそこで主にやっていたことは、「人々が学ぶのにどうするのが一番いい方法か」という研究でした。今日は、3つのことを中心に焦点を当てたいと思います。そこで勉強している間にだんだんと分かってきたことが、3点ほどありました。1つは、当然ですが、学生たちは積極的である方が、受け身でいるよりも学ぶことが多いということです。ですから、今日のキーポイントとしては、アクティブ（積極的）に学ぶということです。話さなければならないという状況にある時の方が、つまり言葉を使った時の方が、どうも学びが多いようです。

まず必要なのは、頭の中で思ったことを口に出してみ、そのことに対して周りの人からフィードバックをもらうということです。これがもし分からないという方がいらっしゃれば、最初それが分からないと言った多くの先生を私は知っています。そういう人たちは私が教えるまで、私がこうだよと言うまでは上手に教えられませんでした。それから、生徒たちの中にもそういう人はいます。生徒たちがお互いにつながってなければ、お互いに思ったことを述べ合って、フィードバックしてもらうということはできません。自分だけで個別に勉強したり競争し合うよりも、お互いに協力している方が学びは深まるということです。

皆さん、ここにじっと座っているだけでは、隣の人と「居心地がいいわ」というふう思えるようになるわけではありませんよね。じゃあ、これから皆さんを協同というところに導いていきたいと思います。

【デービッド】：では、三人のグループを作って下さい。

【ロジャー】：四人だと多すぎるのです。

【デービッド】：できるだけ異質なメンバーが集まったグループにしてほしいのです。ちょっと待って下さい。動く前に4つほど指示を出したいと思います。あなたの知らない人を2人探し出して下さい。あなたとは違う2人ですよ。たとえば、背の高い人は、だれか背の低い人を探して下さい。女性だったら男性を探して下さい。もし大学の先生だったら、小学校の先生を探して下さい。知らない人で、あなたとは何かが違う2人を探すということです。

そして、全員、今座っている席でないところに移らなければいけません。ほかの人がこちらに来るのを待ってはいけません。

（協同学習の実践「3人グループをつくる」）

【デービッド】：全員、3人のグループが見つかりましたか。それでは、グループの人から3つのことを聞き出して下さい。まず名前をお互いに知って下さい。それから、どんな職業でいらっしゃるか。どこで生まれたか。この3つです。

【ロジャー】：3人に1分ずつ差し上げますから、3分でやって下さい。

(協同学習の実践「グループの三人で自己紹介」)

【ロジャー】：もうよろしいですか？ 終わった人は手を上げて下さい。OKですか？ 私の言うことが聞こえた方は手を上げて下さい。では、今日、皆さんに取り組んでいただくしごとを紹介したいと思います。

私はデービッドと同じ大学で教えるようになった時に、デービッドの方の背景としては社会心理学、私の場合は「人はどういうふうに学ぶか」というバックグラウンドがありました。私たちに興味を抱かせた1つの単純な質問がありました。それは、生徒たちが学ぶときにどうやったらお互いにかかわりを持てるか、ということでした。

人と人のかかわり方は、基本的には、3つの方法しかありません。まず、『競争』というかかわりを取り上げてみましょう。この場合は、教室に入って座って周りを見回して、まず、だれとだれに勝たなければいけないのかなあ、と思うことですよね。大学に入る前から、あるいはもっと若い頃から、自分はいったい何人の人を負かさないといけないか、というのを知っていることが多いのです。自分は90%の人に打ち勝って10%の中に入ればOKである、というふうに思っている人が多いわけです。

競争的な関係にある生徒たちには、ある共通している態度があります。情報を分かち合うというよりも、お互いに隠し合うことが多いのです。自分がどの辺りにいるかというのを見るために、ほかの人がどういうふうになっているかをとても知りたがるのです。テストをもらった後で、ドアの外に出て、「何点だった。何点だった」とみんなに聞いて歩くのです。同じクラスの中のほかの生徒よりも良くならなければ、と考えるわけです。

その見方を表す研究がありまして、これはこれまでも、そして今もそうなのですが、アメリカの多くの学生たちがこう思っているのです。私たちがカナダとアメリカ、両方で2,000人ぐらいの学生たちに調査して、どのようにクラスの中でかかわり合うのかと尋ねたところ、80%の人が競争するのだと答えました。

ですから、学生たちを放っておいて、自分がこうしなければいけないのだというやり方をさせておくと、どうしても競争することになってしまうのです。

ところで、教師が自分のクラスを構成するのに、ほかにまだ2つのやり方があります。1つは『個別』のやり方です。かかわりが個別的なクラスというのは、生徒はドアを開けて入って行って座るのですが、周りをお互いに見たりし

ないのです。先生に向かって、「このクラスで成功するには何をしたらいいですか」、「何をする必要がありますか」と尋ねます。先生の方も個別の勉強のスタイルですと、「これとこれをすれば、クラスで成功できるよ」と答えるわけです。

これら2つの競争的關係と個別的關係の一番の違いは、個別の方にはある基準があるということです。つまり、個別の場合、すべての学生が成功することが可能です。こういうクラスでは、先生が設定した基準というものをクリアさえすれば、全員が成功するということもあり得ます。

では、3番目の交わり方、交流の仕方ですが、それは『協同』です。協同的にかかわりの場合、クラスでは座ったら周りの人をよく見るということですね。そして、授業ではだれから助けてもらえるだろうか、と考えるわけです。課題解決へのサポートが得られるだろうか、また、だれが僕が成功することを希望しているだろうか、毎回自分が授業に出るということをだれが期待してくれるだろうか、自分が成功したときに、だれが自らの成功と同じように祝福してくれるだろうか。

もし私がクラスに協同的な雰囲気を作り上げることができたとしたら、それに対する答えは「みんな」ということです。自分が成功することをみんなが望んでくれるし、自分がここに出席していることをみんなが望んでくれる。自分が成功したときには、みんなが祝ってくれる、と。

**【デービッド】**：では、本日の話題の核心に入りますが、これは、基本的には理論と研究と実践のつながりということです。もっとも基本的で中心となる理論としては、「社会的相互依存理論」があります。

この社会的相互依存理論については、それを検証する多くの研究があります。1900年代後半から、研究としてはこれら3つ、すなわち協同的・個別的・競争的の違いは何だろうという研究がたくさんなされました。

1989年にロジャーと私は、メタ分析の本を出版しました。この時点で550に及ぶ競争、個別、協同事態に関する実験や研究がなされていました。協同に関する研究は150にのぼっています。今ではこうした研究は1,000をゆうに超えています。それは協同と競争と個別というものを比較した研究です。

Impact Of Social Interdependence On  
Dependent Variables: Mean Effect Sizes

	Coop/Comp	Coop/Ind	Comp/Ind
Achievement	0.67	0.64	0.30
Interpersonal Attraction	0.67	0.60	0.08
Social Support	0.62	0.70	-0.13
Self-Esteem	0.58	0.44	-0.23

Note: Coop = Cooperation, Comp = Competition; Ind = Individualistic

Johnson, D. W., & Johnson, R. (1989). *Cooperation And Competition: Theory And Research*. Edina, MN: Interaction Book Company

(c) Johnson & Johnson

35

では、表を見て下さい。もしも協同学習を使った場合、その学びも高くなり

ますし、生徒の間に人間関係のいい関係が生まれやすい、ということがわかります。学生たちの心理的な健康とか、社会的な能力というものも増加する傾向があります。もしも、学生たちがお互いに協同して勉強した場合には、自尊心がほかの2つの事態よりも高くなるようです。今日は、後ほどこういう理論や研究についてもっとお話する予定です。

最初に、まずそれを実行する場合のやり方について、お話したいと思います。つまり、「協同学習とは何であろうか」ということです。

**【ロジャー】**：それでは、皆さんにここで協同作業していただいて、協同の学びというものがどういうふうになっていくかというのを見てみたいと思います。

資料の8ページを開けて下さい。そこに四角形が書かれています。これは四方形あるいは四角形といいます。皆さんに取り組んでいただく課題は、いろいろな線が引いてありますけれども、このページにいくつの四方形、四角形があるか、それを見つけてもらうことです。

先ほどお話ししたようにこの課題のやり方には3つ方法があります。自分だけで一生懸命頑張って、あとの二人、一緒に座っている人よりも早く見つけるというやり方があります。そうですね、これが競争です。もっとも早くできた人が立ち上がって、ほかの人にどの人が勝ったか見えるようにする、というやり方もあります。短くてすぐできる競争です。

または、一人ひとり個別にやってもらうやり方で、正解数の90%以上見つけ出したらこのセッションを終わってもいい、とする方法もあります。ただし、できなかった人は、残ってちゃんと答えを見つけるまでやってもらう、ということになると思いますが。

そして、協同的なやり方があります。今日はこれをやろうと思います。このページで見つかるすべての四角形を3人で見つけてほしいということです。

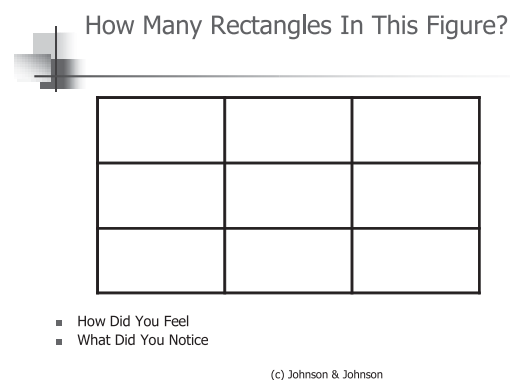
グループで1つの数字を、みんなでちゃんと話し合って1つの答えを出して下さい。課題が終わりましたら、各自で自分のサインをして下さい。サインをするということは、私はこの答に賛成しました、ということです。

課題が終わってしまった後、「いやあ、私はもっと見つけていたんですけど」と言ったり、「正解していたんですけど」などと言って来ても、すでにサインしてあればだめです。あなたはもうその答に賛成したのですから。サインをするということは、四角がどこどこにあるかをちゃんとと言える、ということでもあります。サインをしたということは、私と一緒にいるほかの別の二人も、ちゃんとここここにくつあります、と言えるということを意味します。

私とデービットがよくやるのですが、皆さんのグループの間を歩いていて、「あなた、どこにどれだけあるか見せて下さい」と尋ねたりします。そんな時、どの人に当てられても、そのグループのだれが尋ねられてもきちんと言えるようにしてほしいのです。

では、皆さんにお願いしたいのは、課題の達成にちゃんと全員がかかわること、そして積極的にかかわってほしいということです。時々、ほかの人が言っていることをただ聞いていたり、考えていたりする人がいるものです。そういう場合にも、その人はほかの数え方や正解、やり方を見つけているかも知れません。そして、やり方が2つ見つかるということもありますので、積極的に発言してもらって下さい。そして、大事なことは、どういうふうにして見つけたかというそのやり方をお互いにちゃんと理解できる、全員が理解している、ということです。

6分差し上げますので、1つ答えを見つけて、ちゃんとサインを6分の間にして下さい。では、どうぞ。



(協同学習の実践 「四角形の数を見つけ、サインをする作業」)

【ロジャー】：はい、聞いて下さい。まだ残り時間が1分あるのですが、ちょっとアドバイスを差し上げます。できてしまったグループは、ほかのメンバーの助けなしに各自でここどこに何個あるというふうに練習してみてください。

いいですか。正解数の90%以上の答になったところは、そのグループは全員が成功したということにします。ですから、グループとして成功か否かということなので、競争しているわけではないのですよね。グループ同士での競争でもないのです、周りのグループに「いくつになったか」と聞いてみても結構です。じゃあ、近くのグループの人に聞いて見て下さい、数が同じでしょうか、どうでしょうか。

(協同学習の実践 「答えの確認」)

【ロジャー】：はい、聞こえる方は手を上げてみて下さい。準備ができていなければ続けて下さっていいです。準備のできたところは手をあげて下さい。手をあげる前に、ちゃんと答を確認し、全員がこの数だということを、そして「この数え方だよね」と一人ひとりが示せること、それができたら手をあげて下さい。

【デービット】：それでは、こちらを向いて下さい。協同的なグループの目的

は、一人ひとりを強い個人にすることです。協同の目的は、一人ひとりをより強い個人にすることなのです。別に正しい答えを出せる人が強い個人という意味ではありません。より強い個人というのは、このようなタイプの問題に対して、やり方が理解できるということです。

私がゴー（GO）と言いましたら、立ってほかのグループから一人相手を見つけてペアを作って下さい。そして、自分のグループはどういうふうにしてこれを解いたか、というそのやり方、戦略をお互いに話し合ってみて下さい。じゃあ、どうぞ（GO）。

（協同学習の実践 「ペアをつくり、お互いに答えを確認し合う」）

**【デービッド】**：はい、では終わらしましょう。それぞれ相手にお礼を言って、元のところに戻って下さい。

では、気になっている人に正解を教えますが、答えは36の四角形があるということです。ロジャーがよく言うのですけれども、教科書に書いてあるような答えとか、正しい答えに、学生たちがあまりこだわることのないように注意して下さい。というのは、生徒とか学生は、教科書に書いてある答えよりももっともっと面白い答えを持ってくることがあるからです。

中学1年生で、こんな答えがありました。彼は「72の四角がある」と言って来ました。「どうやって72も見つけたの」と聞きましたら、とても単純でした。「裏からも見えるから、裏と表で足すと72」。こんな答えがロジャーはとても好きです。

**【ロジャー】**：ここには英語の先生がいらっしゃるかもしれませんが、37という答えもあり得ますよね。上の指示文の中に「四角形を探して下さい」と書いてありますから、この『四角形』を足すと37になるというわけです。つまり、言葉も足してしまうわけです。

**【デービッド】**：それでは、ちょっと強調しておきたいことがあるのですが、お互いに「36が答えだったね」というふうにメンバーに言えただけでは、個人として強くなったというわけではありません。この問題を解くためのやり方、数え方をちゃんと伝えられるかどうか大切です。このタイプの問題を解くには、たくさんのやり方があります。まず、ランダムに見えたものだけ数えていくというやり方がありますよね。また、36の四角に違う色を1個、2個と塗っていくこともできます。

1個だけの枠からなる四角形がいくつあるかとか、2個からなるものだとか、3個からなるものだとかというふうに個数ごとに数えていく方法もあります。中の図形のそれぞれに番号を付けて、1で1個、1と2でも1個、1・2・3で1個というふうに数えることもできます。それぞれのポイントに記号をふってもいいのですよね。それで、ABFEで1個、ABCGももう一つの四角だと。また、



数学の公式もあります。これを解くには、いろいろな方略・やり方があります。とても大事なことは、少なくとも一人ひとりが、1つの方略をちゃんと理解することですね。

授業の流れのパターンというのがありますが、グループの中でやっているけれども、実際は一人でやるというやり方もあるでしょう。だから、1日中グループになっているわけではなくて、グループでやったり一人でやったりと、いろいろなことを繰り返していくのですね。方略・やり方を持っていれば一人でもできるのです。

**【ロジャー】**：皆さんにもう一つグループでやっていただくことがあります。では、今の四角形をおいておきまして、それぞれのグループがどれぐらい協力的にできたのかというのを振り返ってほしいのです。

最初に皆さんがかかわっていることが大事だと言いましたけれども、どの程度それぞれのメンバーがかかわることができたと思うか、評定してみてください。1～10のうちから一人ひとり数字を選んでほしいのです。1を選んだ方は、まったくかかわれなかった、自分は頭の中でだけ考えていて、あと2人の人にさせてしまったという場合ですね。10は全部の時間、ずっとこれにちゃんと集中していたという場合です。「ちゃんとやるまで部屋を出られませんか」と言ったので一生懸命やった人もあるかもしれません。どれぐらいかかわれましたか。紙に自分でどれか数を選んで書いてみてください。

皆さんに3分間の会話の時間を差上げます。3人で話し合っ、「どうしてこの数になったのか」ということを、3分間話し合っしてほしいと思います。3分ですから、一人1分ということになります。はい、始めて下さい。

(協同学習の実践 「グループにどれぐらい協力的だったか」)

**【デービッド】**：私は、グループの振り返りをするのがとても好きなのです。というのは、最後にお互いにお礼を言いたいですよ。こういうふう握手して、「私たちのグループは素晴らしかったね」とお互いについてみてください。

それでは、ここで相互依存というものの定義、「definition」についてお話をしたいと思います。

まず、教師としてすべきことは、クラスという状況をどのように構成するかということですね。どのようにかかわり合うかという、そのパターンを決めることです。それによって学習の成果が変わってきます。そして、先ほども言ったように、その目標を達成するための3つのやり方、構成の仕方があります。

最初は『競争』ですね。もしも競争をさせたかったら、ゴールを設けて、ほかのクラスメイトよりも早くそれを達成するように、必ず成績が良くないといけないというふうに言います。そして、目標達成の基準に照らして順位づける、つまり相対評価をするのですね。その場合、たいていは正規分布を描いて、自

分がどのような位置づけにあるのかがわかることになります。

そこで起こるのは、互いがゴールを達成しようとしたネガティブな関係です。悪い人間関係、相互関係が起こってしまいます。

**【ロジャー】**：あなたのお名前はなんと言いますか？ マミさん？

**【デービッド】**：たとえば、私とマミさんとが競争しているとします。競争事態では、マミさんが成功すればするほど、私の成功するチャンスは下がってしまうということです。私が一生懸命勉強したり、ベストを尽くすと、マミさんが成功するチャンス、栄誉をもらうチャンスは減っていくということです。なので、私が勉強しなければ、彼女にとってはとてもいいことになるのです。彼女が勉強しなければ、私にとってはとてもベストな状況になるのです。

また、教師たちが選べるもう一つの選択肢は、『個別』に勉強させるということです。各個人ごとのゴールを設定し、その基準よりもちょっとでも上になれば合格ということです。つまり、基準に関連した評価をするわけで、設定された基準に比べてどうかということで成績が決められるわけです。そうすると生徒たちは、ゴールを達成するためお互いは何のかかわりを持たなくてもいいということになります。

**【デービッド】**：私とサイトウさんの二人が、それぞれ個別に勉強していたとしますね。その場合、彼が9つしか見つけまいと36個ちゃんと見つけようと、私には全然関係ないわけです。私が一生懸命勉強したり、家でちゃんと宿題をしてこようがしまいが、彼には関係ないのです。それぞれ独立した勉強をしているということになります。

さて、先生方に選ぶことのできる3番目の方法として、『協同』があります。ここでは、グループ全体に対するゴールが設定されます。何か教材を提供して、グループの全員がそれを理解できるようになる、ということが大事なのです。そして、先ほどの個別と同じように一定の基準があって、それに関連した評価、基準関連評価をすることになります。彼らがいい成績を取るためには、そのうちの一人だけが良くできてだめなのです。グループ全員がうまくできたかどうかということで、評価が決まるわけですから。

たとえば、グループの全員がテストの90%以上を取れた場合、このグループの全員に5点ずつのボーナスポイントがもらえるようになっています。これは、ゴールを達成するための積極的なとか、支援的なかかわりということになります。

**【デービッド】**：あなたのお名前は？ トモさんですね。じゃあ、トモさんと私が協同で勉強しているとします。この場合、彼女が勉強したら、それがどんなことであってもそのことは私にとっても利益になるのです。私が一生懸命勉強するというような理由が何かあると、そのことがトモさんにとってもプラスになるのです。つまり、浮かぶも沈むも一緒ということで、日本語で言うところの「一蓮托生」の関係です。

【ロジャー】：では、この協同のグループについてもう少しお話ししたいのですが、次のページを見ていただくと、協同的な機能のためには何が必要かということが書いてあります。協同のグループというのは、ただ学生とか生徒と一緒にグループにするだけではないのです。それだけでは協同とは言わないのですね。本当に協同的なグループになるためには何が必要かということが、ここに5つ書いてあります。ですから、皆さんの今のグループが本当に協同的なグループであったかどうか、ちょっとチェックしたいと思います。

### Five Basic Elements

- Positive Interdependence
- Individual Accountability
- Promotive Interaction
- Interpersonal And Small Group Skills
- Group Processing

(c) Johnson & Johnson

20

最初にデービッドが、「促進的な相互依存」ということを話していましたよね。つまり、さっき言った sink or swim、つまり一蓮托生ですが、つまり、自分が成功するだけではだめで、相手の人も成功して初めて自分の成功になるし、自分が成功して初めて相手の成功にもなる、ということです。

たとえば、野球のチームである人がとてもいいプレイをしたとします。チーム全体としてどのようなプレイであったか、ということがとても大事ですよ。お互いの学びに対して配慮が必要だということで、これを糊のようだ、接着剤のようだというふうに表すこともあります。

さっき四角形を数えたときに、皆さんのグループの中にこの“接着剤”がありましたか。“糊”が存在していたでしょうか。自分以外の二人が、自分がちゃんと答えを見つけるということを希望してくれていた、気にしてくれていたというふうに思いますか？ そして、あなた自身もあとの二人が見つけてほしいなあというふうに思いましたか？ それでは、グループに戻ってこの接着剤があったかどうか、ちょっと話し合ってみて下さい。お互いにチェックしてみてください。

(協同学習の実践 グループで検証；相互依存の関係)

【ロジャー】：いかがでしたでしょうか。皆さんがイエスと言った場合は、いいスタートを切ったことになると思いますが。

次に、一人ひとりの責任性ということをお話してみたいと思います。さっきデービッドが言いましたように、『個人の責任』ということでは、一人ひとりがより賢くならなきゃいけないということでしたよね。四角形の数え方の場合、グ

グループで一人の人だけが知っていてもだめで、メンバー全員が理解していないといけない、とデービッドは言っていました。もしかすると、一人の人が全部やって、周りの人は「ああっ、いいよ。何でもサインするから」というようなことがあったかもしれません。これでは協同とは言えないと思います。すべての人、一人ひとりがこの教材を理解できて、そして一人ひとりがそのグループに貢献して初めて、協同的だと言えるのです。

じゃあ、この個人の責任ということに関して、自分も何個の四角があるか知りたかったかどうか、それとも、まあ、とにかくサインするからちょっと自分は逃げていたと思ったか、その辺をお互いにチェックしてほしいのです。イエスカノーでいいので、知りたかったか知りたくなかったか、ただサインだけしたかったか、振り返ってみてください。

(協同学習の実践 「グループで検証；個人の責任の自覚」)

**【ロジャー】**：これらの2つ、「支援的な相互依存」と「個人の責任」というのはとても関連があるのです。こちらは一人が沈めばみんなも沈んでしまうということ、もう一方はそれぞれに責任があるということで、とても関連があると思います。

もう一つの大事なスキルとしては、どのように私たちがお互いにかかわり合っていくかという、「協同的なスキル」ですね。私たちは社会心理学をモデルとして使っていますので、もしも、それを使えない人がいたら使いましょうと励ましてあげたり、また時には教えてあげるということも必要かもしれません。

グループ活動の中で必要とされるスキルとして、どんなスキルがあるかという、1つはコミュニケーションというスキルが要ります。小さなグループでのリーダーシップというスキルも必要です。それから、信頼を構築していくというスキルも大事です。意志決定も大事ですね。葛藤があるときにそれにどう対処 (management) していくか、ということも重要です。

この協同的なスキルというのは、グループの活動がうまくいくためのスキルです。それぞれのグループに戻っていただいて、さっきの四角形を探していたときに、どんなふうに自分たちはスキルを使っていて、うまく相互交流 (かかわり) ができたかどうか、その辺りを話していただきたいと思います。グループがうまく機能をするような働きができたか、それぞれ3人で、各自の行動というものを考えてみてください。3分ほどお願いします。

(協同学習の実践 「グループ検証；協同的なスキル」)

**【ロジャー】**：今まで協同の条件について3つのことを話してきましたが、あと2つあります。

4つ目は「対面してのかかわり合い」ですね。きちんと顔と顔を付き合わせて、かかわり合うということです。グループとしてこの課題をどう解けたか、グループとしてどうだったかというふり返りを、さっきやってみましたよね。1～10までの10段階で評定してみました。

これはとても価値のある概念で、覚えておいてほしいのですが、協同的な家族・結婚・友達、あるいは教師集団というものを構造化させるためには、とても必要な要素です。先ほど、デービッドが言ったことをもう一度思い出してほしいのですが、一緒になって協同で働く達成するものはずっと増えてくるということです。ですから、先ほどの四角形を見つけるという課題も、一人でつけるよりも対面してみんなで協同した方が、たくさん見つかるということがあります。

そうしたことを実証する研究や理論があるといいましたが、この教室に来てその理論をただ一人で座って聞いているだけよりも、ほかの人と一緒に活動したことで、グループの二人をよく知ったことになりましたよね。一人でこういう作業をするよりも、このように一緒に協同してやりますと、自尊心も高まりますし、また自分に対する自信というものも高まるということが研究で証明されています。

**【デービッド】**：まずは、理論から始めましょう。「相互依存理論」の説明から始めて、次に、それを実証する、検証する研究をしていきます。そして、それが検証されましたら、そこから実践的な方法というものを生み出していくわけですね。そしてさらに、そのもともとの理論をもっとよりよくしていく、改訂していくわけですね。さらにまた、それ以上の研究をして、検証された理論をもっと改訂しまして、そしてそのやり方も修正します。理論を改訂するというのはこういう循環過程をたどるわけですね。

では、「社会的相互依存理論」の歴史について、ちょっとお話ししたいと思います。コフカまでちょっと戻りたいと思います。次にクルト・レヴィンに行きます。それからドイツは、そのレヴィンの弟子になります。そして私はこのドイツの門下生の一人です。そこで学びました。今、私は「社会的相互依存理論」について話していますが、コフカからレヴィンにいて、ドイツにいて、私にきて、そして今、皆さんに伝わっているわけですね。皆さんはレヴィンたちのすばらしい弟子の一人になったということです。ですから、グループに戻って、お互いに「おめでとう」と言ってみてください。

この「社会的相互依存理論」をドイツは1つの理論として形成しました。彼は相互依存には2つのタイプがあると言いました。すなわち、ポジティブとネガティブ、プラスとマイナスの相互依存がある、2つの違うかかわり方がある、と。それは、支援的でお互いに助け合うものと反対に相手の人がやろうとすることを妨げるようなかかわり方です。この理論を検証するために、これまでに何百もの研究がなされてきたということをお伝えしたいと思います。こう

した研究は、1880年にヨーロッパで始まりました。アメリカでは1897年に研究が始まり、また研究書が出版されました。この研究は世界中の国々で行なわれていますが、1940年代、50年代、60年代のほとんどの研究はアメリカでなされました。今では日本でも多くの研究がなされております。韓国・香港・中国・台湾・マレーシア・タイ・オーストラリアやニュージーランドでも行われております。インド・アイルランド・サウジアラビア・トルコや世界中のいろいろな国でこの研究がなされております。

先ほど言いましたように、グループ活動の成果というものが研究されていますが、それは3つの分野（領域）に分かれます。

1つは必ず達成できるのですが、たとえばより高い協同学習というものを学生が身に着けることができます。そして、その学んだことを長く覚えているという傾向があります。そして、モチベーションも高くなります。その業績に関するたくさんの結果が出ております。これは、世界のお互いの仲間におけるいい関係ということですね。そして、心理的な健康も得ています。

これに関しては、先ほどお話ししたので、ここではスキップしたいと思いますが、もし興味があるようでしたら、1989年の私たちのメタ分析の結果を参照して下さい。あるいは、これについてお聞きになりたい方は、この講演が終わったあとで来て下さればお話ししたいと思います。注意深く理論化され、多くの研究が積み重ねられているものです。それで協同学習というのは、今ではどんな教育の中にも存在しているということが言えると思います。またそれが意味するのは、もしも皆さんがお互いに協力して何かを成し遂げようとしているときには、人生の上でも何かいいプラスがあるということです。一つは、就職の機会を得やすいということです。そして、昇進の機会も多い、幸せな結婚をするチャンスも高いようです。また、良い両親になる傾向もあります。

協同学習で学んだことというのは、人生におけるすべてのあらゆる面であなたにプラスをもたらすと思います。皆さんがクラスの中でこの協同学習を使われるときにはいつでも、生徒たちに贈り物をあげているということになるかもしれません。

**【ロジャー】**：皆さんにアドバイスすることがあります。それは「頑張れ。逃げるな」ということです。今日ここに来られた方、学生・生徒の皆さんは、みんなが積極的になってほしいとか、お互いにつながって、そしてよく発言するようになってほしい、ということで来られた方が多いと思います。これまでお話ししてきたように、たくさんの研究とか理論があなた方をサポートしています。

**【デービッド】**：夕べ苦勞して描いた協同を表すこの絵を見て下さい。3人の人は、いつもたった一人よりも賢いということです（cf.「3本の矢の教え」）。

最後に皆さんと私の好きなことわざの一つを分かち合いたいと思うのですが、これは中東からきたことわざです。たとえば、中東で、砂漠の中で自分自身が

道に迷ったというふうにイメージしてみてください。このことわざは、『自分では掘らなかった井戸から水を飲んだ』と言っています。教室の中では、生徒たちが、先生や皆さんの知恵の泉から水を飲むだけではなくて、生徒同士が互いの知識や経験から泉を汲み合うように、水を飲み合うようにしてほしいのです。

では皆さんに最後の課題を与えます。では、一緒に活動してくれたメンバーの皆さんに向かって「ありがとう、あなたがいなければ、今日の今の私はいなかったし、何もうまくいかなかった」とお互いに感謝し合ってください。

(協同学習の実践 「グループ検証；お互いに感謝し合う」)

**【司会】**：本日は、どうもありがとうございました。一応ここで終了いたしますが、質問がある方がいらっしゃいましたら、質問を受けて下さるということですので、前においで下さい。遅くなりましたので、それでは皆さん、気をつけてお帰りいただきたいと思います。

最後に、もう一度講師の両先生に拍手をお願いいたします。(拍手)